

# 中予地方局農業振興課『普及だより』

令和4年3月発行

地域農業育成室・産地戦略推進室

	〒790-8502	松山市北持田町132番地	tel (089) 909-8762
伊予農業指導班	〒799-3122	伊予市市場127番地1	tel (089) 982-0477
久万高原農業指導班	〒791-1202	上浮穴郡久万高原町入野263番地	tel (0892) 21-0314



## 「農福連携」で地域活性化へ ～農福連携に取り組んでみませんか？～

農業生産の現場では、担い手不足や労働力不足が進行し、労働力確保が喫緊の課題となる一方、福祉分野では、障がい者等の就労機会の確保・自立支援の観点から農業への就労も視野にいたった活動が増えています。中予地方局は、農作業体験マッチング等を通じて農業者の障がい者雇用への理解促進や雇用モデル作りを進めていますので活動に参画しませんか。

### ■農業版ジョブコーチの育成

就労継続支援施設の支援員や関係者を対象に、農業の基礎的知識や技術に関する講座を開催し、野菜栽培や病害虫防除対策、農業機械の操作方法を講習しました。普段は農業に関する知識や技術を研修する機会がないことから、熱心に受講されていました。



農業版ジョブコーチ育成研修会

### ■農業者と福祉事業所のマッチング

今年度、米の出荷調製、さといも収穫作業、かんきつの段ボール折り、「せとか」のサンテかけなど計6回の「農作業体験マッチング会」を開催したところ、複数農家と契約に至った福祉事業所もあります。

農業が持っている癒しの効果により、精神面でのリハビリテーション効果が期待でき、農作業の日を楽しみにしている施設利用者が多く現れています。

また、作業受委託でなく、農家の好意により、稲わらやもみ殻の無償提供を受け、堆肥化しての利用や指導も受けながら新たに野菜作りを開始した事業所もあります。



動画を活用したマッチング農家  
掘り起こし活動



農作業体験マッチング会

### ■今後の取組み

今後も、農業版ジョブコーチ育成研修会の充実を図るとともに、農家を対象に各種会合で取組み事例等を紹介し、農福連携のより一層の理解促進を図っていきます。

福祉事業所から農産物の販路を求める声が多くあることから、中予地方局の1階ロビーで、農産物の販売と農福連携のPRを兼ねた「農福フェア」の開催を検討しております。



農作業後に景色のいい山頂での昼食

## リアルタイム診断による生育の見える化

地域農業育成室は、いちごやなすの高品質安定生産のため、リアルタイム診断による植物の生育状態や土壌水分の見える化を行い、栽培管理の最適化や収量向上を目指しています。

リアルタイム診断とは、植物体内の栄養状態をほ場で測定し、追肥の必要性を判断するために行われています。当室では、JAとの、ほ場巡回時にいちごやなすの第3展開葉を採取し、搾汁法によって硝酸態窒素イオン濃度を測定しています。多くの農家で診断ができ、施肥の必要なタイミングがわかり、樹勢を維持することができました。このほかに、土壌水分計（pFメータ）を用いて、土壌の水分状態を測定し、かん水の適期を判断できました。

今後も計測した数値と生育状況を調査し、作型・品種に適した栄養診断指標の作成により更なる収量向上を目指していきます。



いちごの硝酸態窒素イオン濃度測定

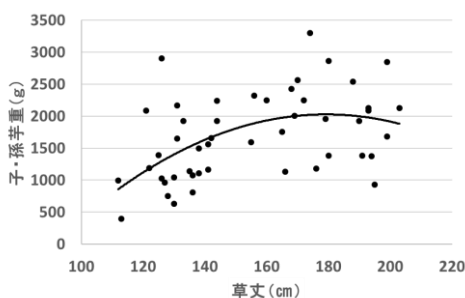


なすの土壌水分計設置

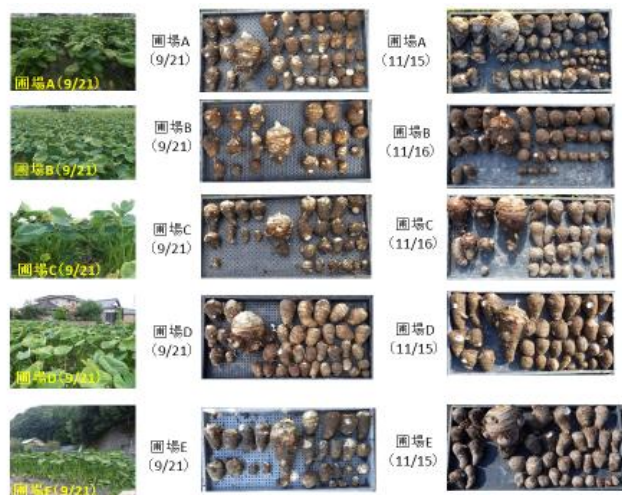
## 伊予地区、さといもの産地化を目指して

伊予農業指導班は、近年、普及拡大しているさといも「愛媛農試V2号」の産地化を目指し、技術確立に取り組んでいます。「愛媛農試V2号」は、孫芋、ひ孫芋の収量が多いことが特徴で、そのためには、適正な草丈と葉面積確保が必要となります。

そこで、管内5法人等のほ場で生育調査を実施したところ、草丈は170~180cmで最も収量が多い結果となりました。当班では、今後も生育調査を実施し、伊予地区に適したさといも栽培のデータの蓄積を行い、安定生産を目指していきます。



草丈と子・孫芋の関係



芋の着生状況

## さくらひめ鉢物の高品質安定生産を目指して

県育成品種のデルフィニウム「さくらひめ」は、切り花用品種として育成されましたが、中予地域では平成 29 年から鉢物としても栽培が開始され、現在 14 人が栽培に取り組んでいます。産地戦略推進室では「さくらひめ鉢物産地づくり推進事業」（局予算）により、産地化に向けた取組みを支援しています。

講習会や実証ほの設置等を通して、自家育苗技術や鉢物に適した草姿にするための摘心技術等を生産者へ普及しています。また、県外の主要な花市場や消費者を対象にアンケート調査を実施し、品質への評価や改善点、今後の取扱意向等を確認しました。

当室では、これらの取組みで得た結果を今後の生産に繋げるとともに、SNS等を活用した情報発信により、認知度の向上と販路拡大を図ります。

「さくらひめ」の栽培に興味のある方は、当室まで御連絡ください。



新規生産者対象の自家育苗講習会



ハウスで情報交換を行う鉢物栽培セミナー参加者



キャンペーンを利用した消費者ニーズ調査の実施

## 愛媛県食材の魅力と「食と農」の大切さを伝えて！

愛媛県農山漁村生活研究協議会は、平成 19 年度から県の「えひめ食農教育推進事業」の委託を受け、ふるさと料理などのえひめ食文化普及講座や保存伝承活動を実施し、学童や消費者に県産食材の魅力と「食と農」の大切さを伝えています。ここでは、中予の 3 地区の生活研究協議会が実施している特色ある食農教育活動を紹介します。

### 【松山地区】



松山市の庄地区で、親子を対象に、地元野菜の庄大根の紹介や庄大根を使った豚汁等を作りました

### 【伊予地区】



伊予市の北山崎小学校では、鯛のさばき方を見学した後、鯛めし、芋炊きを作りました

### 【久万高原地区】



町協議会では、稲穂からご飯をテーマにしたディスプレイを作成し、町内の全小学校、幼稚園に配布しました。

**ふるさと料理や手作り加工品の作り方は、インターネットでも配信しています♪**

☞ 「愛媛県農山漁村生活研究協議会 YouTube」をぜひ、ご覧ください！

[https://www.youtube.com/channel/UCyP1R\\_SVAkKnr3B6KGJm2RA](https://www.youtube.com/channel/UCyP1R_SVAkKnr3B6KGJm2RA)

## 意見発表会で中国四国ブロック最優秀賞に！

久万高原町青年農業者連絡協議会（会長：森優樹、会員 34 人）の山路隼之介さん(27)が、第 53 回中国四国地域若い農業者のつどいの意見発表部門で最優秀賞を受賞されました。山路さんは県外から久万高原町に移住し、2年間のトマト栽培研修を受けた後、令和3年4月からトマト栽培をスタートさせたばかり。受賞について「うれしい、今後の励みになる」とにっこり。3月上旬に開催される全国大会に中国四国代表として参加します。



山路隼之介さん



トマト苗を管理する山路さん

## 東温市青年農業者協議会 知事表彰を初受賞！

東温市の青年農業者 29 人が組織する「東温市青年農業者協議会(会長：海稻正人)」が、愛媛県優良農業実践集団知事表彰を受賞されました。当協議会は、プロジェクト活動として市場価格に左右されにくいエスニック野菜の栽培技術・販売方法の検討等を行い、地域の活性化に努めたほか、地域貢献活動としてどてかぼちゃの出品等を通じて全国の生産者との交流を図っており、今後も地域を引っ張るリーダーとして、活躍が期待されます。



海稻 正人さん



どてかぼちゃカーニバル(R元年)

## ひろたふきのとうグループ 知事表彰受賞！

砥部町の「ひろたふきのとう」グループ(会長：向井京子 会員 8 人)が、長年の地域貢献活動を評価され、令和3年度愛媛県優良農山漁村生活研究組織知事表彰を受賞されました。当グループは、米粉パンやピザ、餅、菓子類を製造する起業活動をはじめ、食文化普及や技術伝承の食育講座、子育て支援、都市住民との田舎暮らし体験交流等の幅広い活動を展開しています。今回の受賞にメンバーは、「長年続けてきて良かった。今後も広田の魅力発信に努めます」と笑顔で応えてくれました。益々のご活躍を期待しています。



ひろたふきのとうのメンバー



小学生とふるさと料理づくり



こんにゃくの技術伝承